

あとがき

「子ども文化財読本」は、熊野市の小中学生のみなさんに郷土の歴史・文化と先人のはたらきを紹介することを目的につくられました。

熊野市には数多くの文化財が残されていますが、本書ではそれらを一つひとつ紹介することはやめ、郷土の歴史の流れのなかで、文化財を見つめていくことにしました。有形・無形を問わず、あらゆる文化財は、先人のしごとや祈り、ときには戦いといったさまざまな営みの結果、生み出され受け継がれてきたものといえます。人の営みがあってこそその文化財です。そういう意味で、本書では郷土の歴史を軸としながら、その歩みの中で生み出される文化財に目を向けていくことにしました。

「古きをたずね新しきを知る」と言います。過去の歴史と先人の知恵に学ぶことは、現在に生きる私たちにとって大切なことです。とりわけ、新しい時代の熊野をになう小中学生のみなさんには大きな期待がかけられています。

今回の改訂にあたり、本書の大きさを教科書に合わせて大きくし、〔おはなし〕の数を増やして、より読みやすくより知識が得られるように工夫して仕上げました。

皆さんがこの本を読んで、郷土の先人たちの生き方に目を向け、ふるさとにほこりと愛着をもっていただけるならば、これ以上の喜びはありません。

子ども文化財読本

— 熊野の歩みと文化財 —

平成16年3月31日 初版発行

平成20年4月 1日 第1回改訂

令和 4年3月31日 第2回改訂

編集 「子ども文化財読本」編集委員会

松田 健 松尾 博司

仲森 康純 和田 利信

発行 熊野市教育委員会

印刷 トタニ印刷所